

1 本年度の学校評価をふりかえって

「志」を育むための指導を全教育活動で行う「志プロジェクト」の二年目として、「やる気」を引き出し、「やる気」を行動化する生徒を育成するために「いかに生きるか」をキーワードにし、三年間の取組を通して「よりよい社会をつくろう、他の人のために役に立とう」とする決意である『志』をもち、よりよく生きようとする「やる気」にあふれた生徒の育成に取り組んだ。このような「山王やる気教育」の推進により挨拶、拍手、歌声が響く学校づくりが推進され、互いに認め合い高め合う生徒集団が形成され、学校生活は落ち着いたものとなっている。生徒会活動も自主的な活動が多く、部活動においては、運動部・文化部ともに東北・全国レベルで活躍するなど、多くの成果を上げることができた。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	「志」をもってよりよく生きようとする「志を育む教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 三年間を見通した体系的、系統的な取組ができるようになったことが成果としてあげられる。生徒は、様々な取組を通して、生き方について考えを深めることができた。しかし、普段の生活の中での「志」の行動化を図ることについてはまだ課題として残る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「いかに生きるか」をキーワードにした学習を継続し、機会を捉えて生き方について考えさせる。更に、生徒が課題意識をもって主体的に学習に取り組めるよう、問題を発見し、解決していくというプロセスを大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「志」というテーマに絞ったことにより、焦点化され、全ての活動が関連付けられており、大変よい取組である。今後も継続、深化させてほしい。 自己の研鑽を大切に、地元への愛情を忘れず地域の産業や経済の発展を考える機会を取り入れてほしい。
	「分かった、できた」を実感できる授業づくりの確立	<ul style="list-style-type: none"> 年3回のQ U調査から、個別支援の手立てを考え、共通理解し普通の授業の際に生かせるようにした。授業では課題意識や見通しをもたせること、振り返りの実施など共通実践してきたが更に主体的に取り組めるよう指導の工夫を行っていくことが課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の疑問を引き出ししたり、教科等との関連を図ったりして、より課題意識をもたせられるよう研修を行う。支援を要する生徒については、成長の度合いをきめ細かに生徒や保護者に伝え、意欲をもって学習に臨めるよう指導、支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「志」を育む指導を通して、様々な機会に考える活動を行っているので、その力を授業でも生かしていくことができる。 新聞を活用し、地域のよさを知ったり、地域に対する考えをもたせたりする学習を行うことで地域に対する「志」をもつことにつなげてほしい。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初から「山王中いじめ対策基本方針」について全職員でいじめ防止の確認をするとともに、生活アンケートの定期的な実施やふれあいノートの点検など、生徒の悩みや人間関係などをこまめにチェックし、いじめの未然防止に努めた。今後もいじめの絶無を目指して、生徒一人一人の心を成長させる指導を継続していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止は、日頃からの啓蒙や生徒の様子チェックが大切であるが、それだけでなく、生徒一人一人の心の成長を目指さなければならぬ。また、よりよい集団づくりも大切な要因であるので全校として取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のいじめに対する考え方やその未然防止への取組については、十分に理解している。今後も生徒に寄り添う指導を続けてほしい。また、地域の一員として、様々な機会を捉えて、いじめの未然防止につながるための話題提供をしていきたい。
	「やる気」で取り組む生徒指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「志」教育の根幹としての「やる気教育」は定着してきていると感じている。そのために、生徒自身で考えさせ、生徒自身で進めていく生徒会活動を重視していることで、更に意欲的な行動が見られるようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今まで行ってきた、「生徒を子ども扱いしない指導」「生徒自身で考えさせる指導」を今後とも継続していくことで更に良い成果が期待できる。 全教育活動における「志プロジェクト」の推進も、生徒の自主性を育てるものと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 山王中生の頑張りや成長は、機会あるごとに感じている。それは、挨拶や生徒が書いた文章、普段の行動などから具体的に知ることができる。現在取り組んでいる教育活動を、今後も積極的に進めてもらいたいと考えている。
家庭・地域との連携	小中連携、地域との協力的体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学区小学校の要望を取り入れ、出前授業を実践した。この実践を通して、中1ギャップの解消に努めるとともに、教員同士の連携及び研修の機会となった。学校間における受入れに温度差が若干見られた。 夏休みを活用して、教頭等が、学区内の全町内会長宅を訪問して、学校への協力をお願いできた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 陸上記録会の前にとの要望もあり、時期も含めて小中連携会議を活用し、学校間の事前の協議により、児童や教員の要望や本校の出前授業での成果を紹介するなど、連携を強化する。 地域の多大な協力を得て、竿燈まつりに参加しているが、課題である「差し手」の確保についても協力を仰ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携については、よく実践されているので、山王中へ入学してくる児童のためにも体験入学や出前授業、母校訪問等の継続、充実をお願いしたい。 郷土芸能クラブの課題については、どっこいしょプロジェクトを継続しながらも、地域の町内の「中若の差し手」も不足している現状から、地域と共に善後策について検討していきたい。
管理調整	防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 毎月11日を東日本大震災の月命日として、黙祷を捧げている。 避難訓練では、地震後の津波を想定した二次避難、隣の幼稚園との合同避難など工夫した取組を実施した。このことから防災意識の向上が図られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 時間や場所を問わず災害が発生することを想定した防災訓練の実施により、生徒と教職員の防災意識の高揚を図り、実践的な能力を身に付ける。 地域や近隣学校、関係諸機関等との協力的体制を構築するとともに、地域との連携や小中合同の防災訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の月命日に黙祷を捧げていることは、防災への意識を高めるために大変有意義な取組であり、今後も継続してほしい。 幼稚園との合同避難訓練は、中学生にとって貴重な体験となっている。災害時要援護者の存在を中学生の段階で理解できることは、大変重要なことであると考えている。